



# 海老沼小だより

～かしこく やさしく たくましく～

5月号

平成28年4月28日

さいたま市立海老沼小学校

～豊かな自然環境の場で、心豊かな子どもに～

校長 原田 守康

鮮やかな木々の緑が、さわやかな青空によく似合う今日この頃です。子どもたちの動きも生き生きと、活気に満ちています。

本校には市内小学校であまり設置していないビオトープがあります。ビオトープは、失われた自然を取り戻し、生き物が再び戻ってくる環境づくりをしています。子どもたちが身近な生き物とふれ合いながら、自然の美しさ、不思議さ、きびしさ、命の大切さを学ぶ場としています。

ビオトープの池やその周辺には貴重な動植物があります。

繁殖したたくさんのメダカやトンボのヤゴ、モロコヤフナ、貝が生存しています。昭和40年代頃まで各地の小川で見られたメダカは農薬の使用や生活排水等による環境の悪化、護岸工事等により減少し、2003年5月に環境省が絶滅危惧種に指定しました。池の水面に目を向けると、水面の半分ほど水生植物のアサザが自生しています。

初夏には黄色い花を湖面上で咲かせます。(環境省：2007年準絶滅危惧種に登録)

また池の近くのをや湿ったところには、絶滅危惧種のエビネやタコノアシが生えています。タコノアシはいままだ芽が出ていませんが、成長して花が咲き終わり、秋に実がつくと赤くて海いるタコの足ようになります。

学年により、授業で植物の観察や生き物の観察、トンボの成長、トンボの体のつくり、環境などについて学習し、ビオトープを活用することがあります。

最初のビオトープは今から15年前の平成13年6月9日に草地を重機で掘り起し造りました。がれきがトラック2.5台分ありました。今よりもっと広いものでした。そして平成21年、開校30周年の時にビオトープを改修し、現在の形になりました。しかし池の水を雨水でまかなうことはできず水道水を使用するという課題がありました。

3年前の暑い夏休みにビオトープの水は枯れて、池の生き物は全滅してしまいました。そのため平成26年度に県緑化推進委員会、県生態系保護協会に支援していただき、業者に依頼し市環境対策課の立合いのもと井戸を掘りました。10mくらい掘ると砂の層があり、小さな貝殻が出てきました。大昔は10m位下のほうに海があったと思われます。水はそれより少し上の真水に近い地下水をポンプでくみあげることに成功しました。地下水は少し鉄分を含んでいるため、大きなポリ容器に軽石や砂を入れ、布を水の出口につけ鉄分を除去しています。現在、タイマーで午前1時間、午後1時間くらい海老沼の地下水が流れるようになっています。この地下水は常に水がたまっている場所から取水しているので水が枯れることはありません。2年前の8月にビオトープの池に海老沼の地下水が流れ、平成26年10月8日、関係団体、本校PTA代表、環境委員、栽培委員、児童会役員が出席し、緑と水の自然園・ビオトープ完成記念式典を行いました。式典では、メダカ10数匹、モロコヤふな10数匹を放流、アサザなどの植物を植え、現在かなりの数で増えています。

自然豊かな環境の中で、子どもたちに環境への関心や豊かな心を培っていきたいと思います。



生活科「学校の春を見つけよう」の学習場面